NEWS PAPER

熊ラボ記事

vol. 5

2026年11月4日発行

熊を近づけないために、山での歩き方を見直そう

登山道の曲がり角や沢沿いでは、人も熊も互いの接近にきづきにくいことがあります。熊スプレーを備えることに加え、近い距離で突然出会わないための行動が大切です。今回は、歩く時間や仲間との行動、周囲への注意など、山で実践したい五つのポイントをご紹介します。





薄暗い時間帯を避ける

早朝や夕方など、薄暗い時間帯の行動は避けましょう。明るい時間でも熊に出会う可能性はあります。工程に余裕を持ち、下山まで周囲への注意を続けることが大切です。

仲間と離れずに歩く

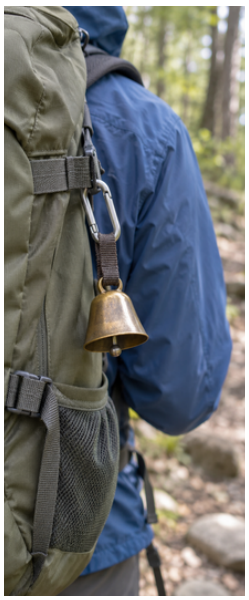
単独行動を避け、複数人でまとまって歩きましょう。先を急いで一人だけ進んだり、後ろの人と離れたりしないようにします。休憩や出発の際にも、お互いの位置を確認しましょう。

見通しの悪い場所に注意

曲がり角や茂みの近くでは、先の様子に注意しましょう。沢の音や雨風で、人の気配が伝わりにくいこともあります。足元だけでなく、周囲の音や動きにも気を配ります。

出会う前に存在を知らせる

熊との不意の遭遇を避けるため、声や手をたたく音などで人の存在を知らせましょう。熊鈴もおすすめです。ただし、音を出せば必ず安全というわけではありません。すでに熊を見つけたときは、大声で驚かせず、落ち着いて距離を取りましょう。



新しい痕跡を見たら戻る

新しい熊の足跡やふんを見つけたら近くに熊がいる可能性があります。痕跡を追って進まず、安全を優先して引き返しましょう。安全な場所に戻ったら、見つけた場所や時刻を登山口の管理施設などに伝えてください。

下山するまで、
周囲に気を配る・
無理せず引き返す！

